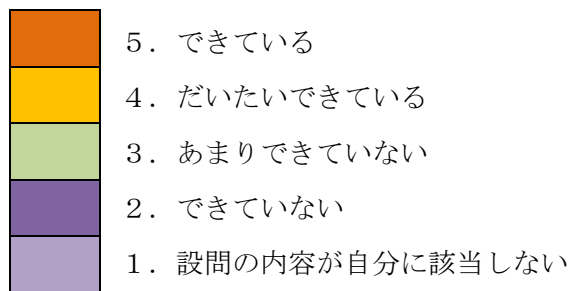


みらい園「2024 年度 自己評価に関するアンケート」集計結果

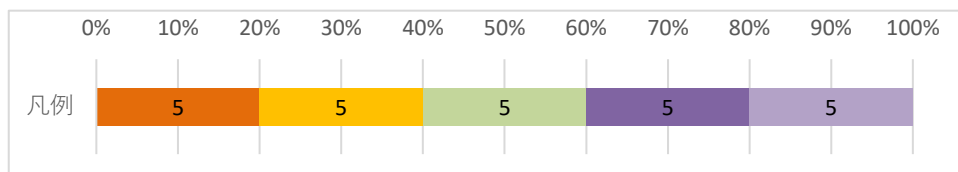
本年度も、以下の5項目および自由記述欄から構成される教職員アンケートを実施した。

- I 園の教育保育理念・基本方針に関して（1～5）
- II 子どもの保育に関して（1～11）
- III 保護者への対応に関して（1～8）
- IV 同僚・上司とのコミュニケーション等に関して（1～6）
- V 能力向上の努力に関して（1～8）

それぞれの設問については、次の評点を選択する形で回答を求めた。

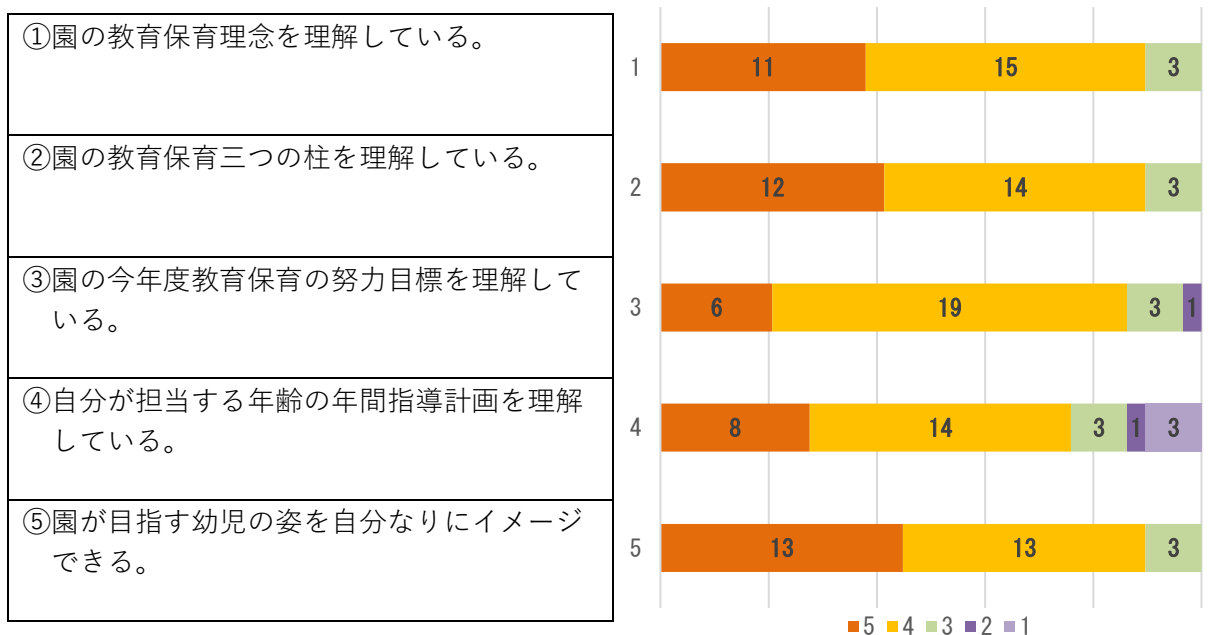


集計グラフ（グラフ内数字は各評点を選択した人数）



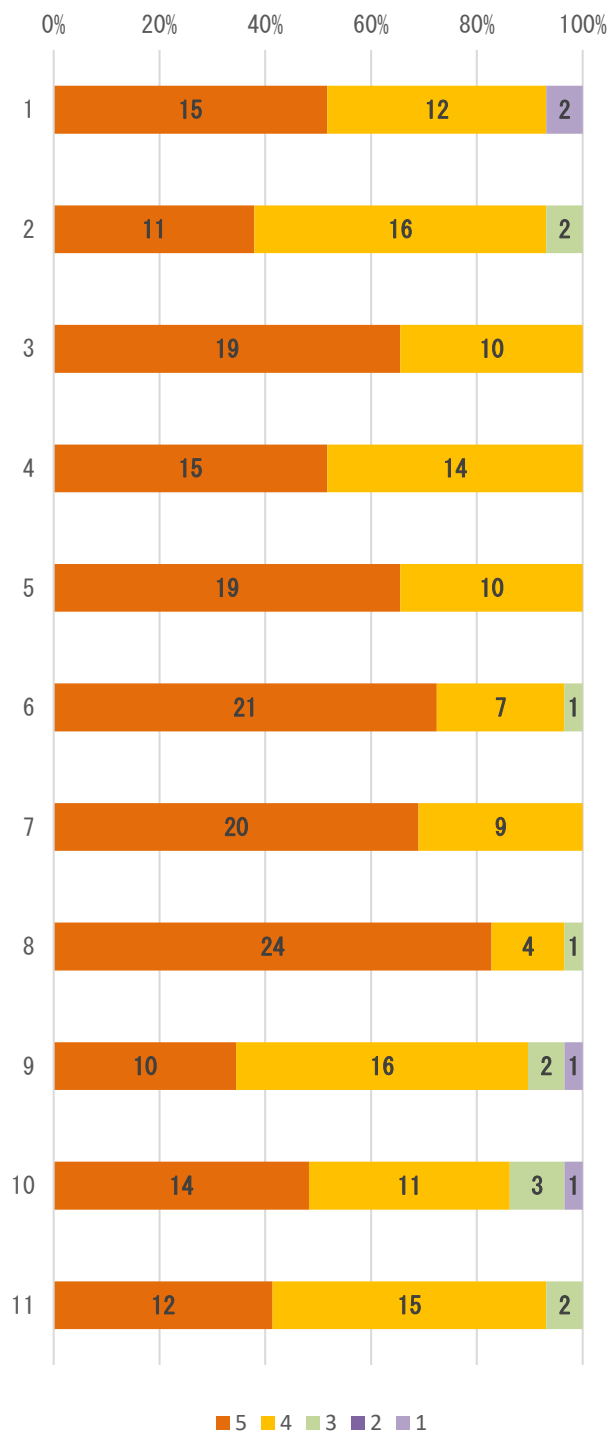
2024 年 12 月下旬から 2025 年 1 月上旬にかけて、Microsoft Forms を用いてオンラインで本アンケートを実施した。該当教職員数は 29 名。回収率は 100%である。集計は園長が行った。

I 園の教育保育理念・基本方針に関して



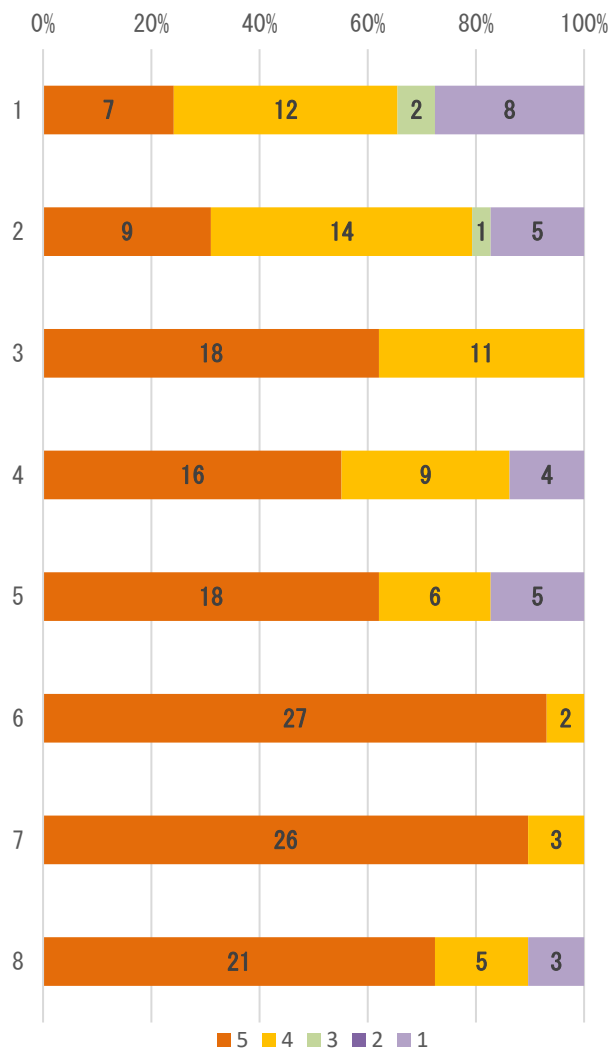
Ⅱ 子どもの保育に関して

①登園時、担当する子ども一人一人の健康状態について十分に確認している。
②子ども一人一人の家庭環境や、発育・発達の状態について理解できている。
③子どもの話によく耳を傾けるようにしている。
④子どもを尊重した、丁寧な言葉遣いを心掛けている。
⑤どの子どもにも感情のむらなく平等にかかわるよう心掛けている。
⑥きつい言葉遣いや、子どもの自信を失わせるような言葉・態度を避けている。
⑦子どもをほめたり、励ましたり、子ども自身が目当てを持てるような言葉がけを心掛けている。
⑧子どもとの温かなやり取りや適度なスキンシップを心掛けている。
⑨子どもが遊びを深めていけるようヒントやアイデアを提供するよう心掛けている。
⑩子ども同士の関係にも配慮して保育を行っている。
⑪保育者自身が、保育の中で神様への感謝の気持ちを持ち、それを言葉や態度で表現するよう心掛けている。



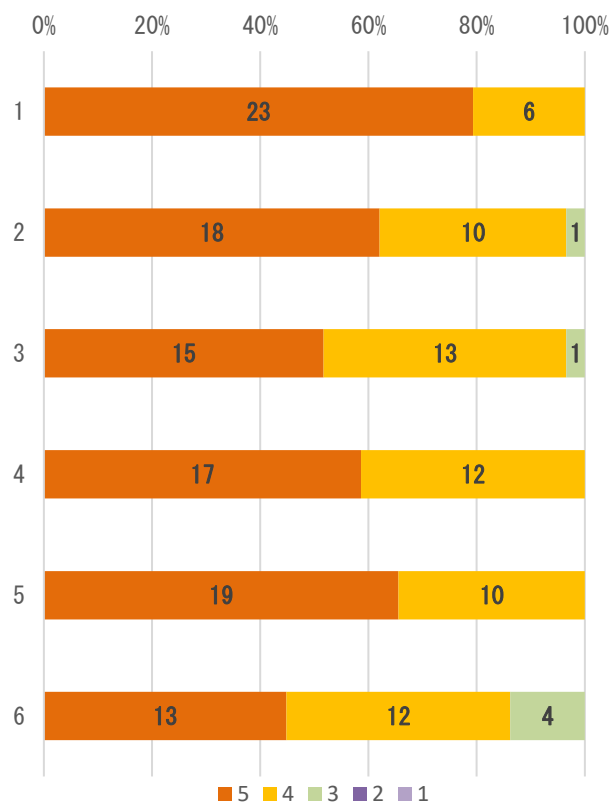
Ⅲ 保護者への対応に関して

①子どもの様子について、直接話をしたり、電話・連絡帳などを使って保護者と情報共有している。
②保護者から説明された各家庭での養育方針などに留意した保育を心掛けている。
③丁寧な言葉遣いを心掛け、友だち同士のよう態度で接していない。
④保護者からの依頼や伝言については、記録を残し適切に対応している。
⑤保護者から苦情等があった場合は、よく話を聞いたうえで、上司に報告、相談をしている。
⑥教職員や園の批判を軽はずみにしたり、他の園児や家庭の個人情報を他言したりしていない。
⑦家庭環境や問題について知り得た重要な情報は、むやみに他言せず、上司に報告している。
⑧保護者からの要望、意見等について、安易に引き受けたり断ったり無視したりせず、上司に報告、相談をしている。

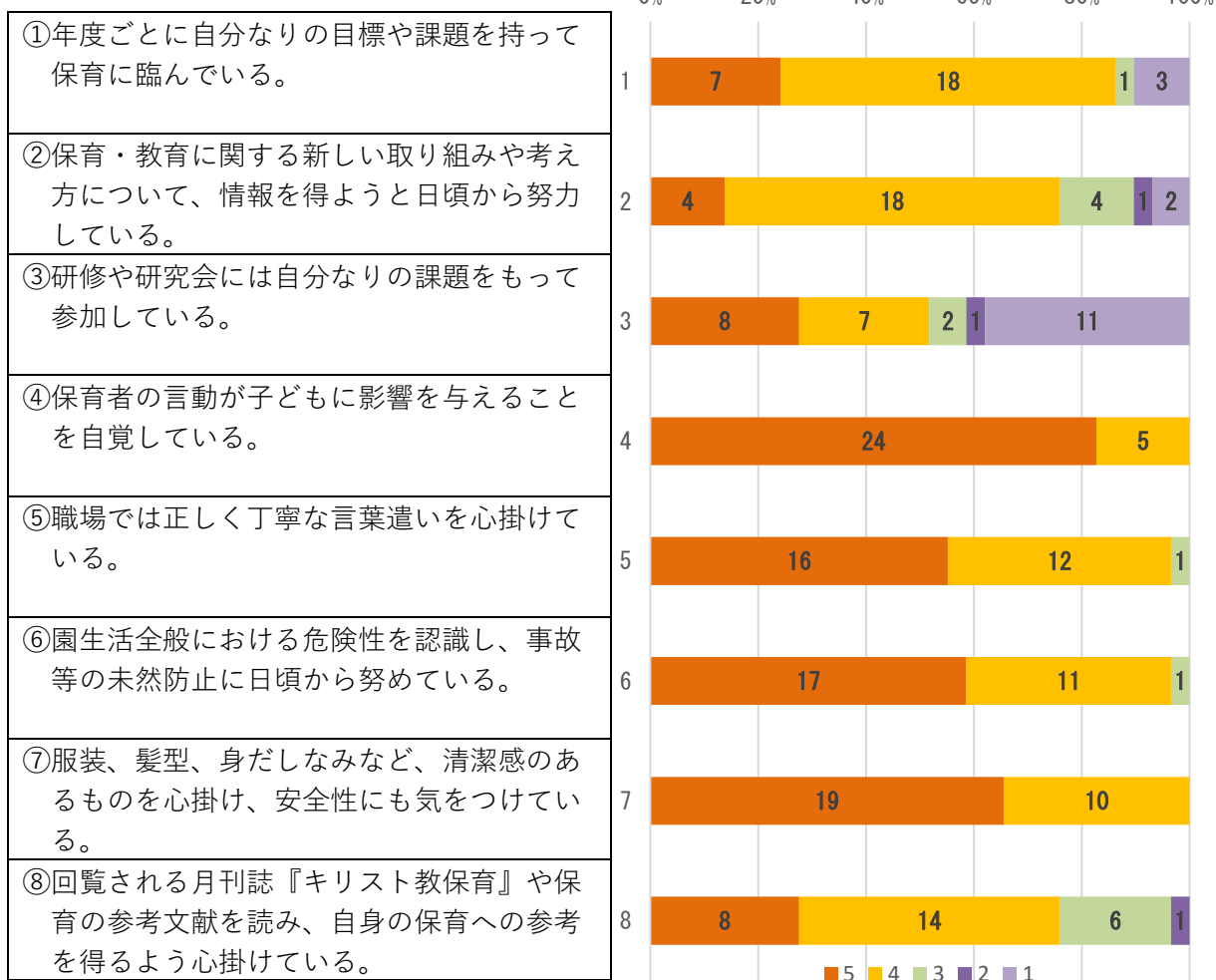


Ⅳ 同僚・上司とのコミュニケーション等に関して

①子どもの情報について、保育者間で共有すべきことは同僚・上司に適切に報告している。
②同僚から保育について相談を受けた時、誠意をもって耳を傾けるよう心掛けている。
③同世代だけでなく、年齢の違う同僚とも積極的に情報交換できるよう心掛けている。
④上司や同僚の助言を受け入れ、自分の考えや行動を見直すことができる。
⑤相手の経験年数にかかわらず、身近な同僚や仲間を尊重する関わり方をするように心掛けている。
⑥自分の考えや思いを上司や同僚に対して伝えている。



V 能力向上の努力に関して



園長所見

アンケートを実施した対象人数は29名である。あくまでも「自己評価」であり、一人一人の教職員は各項目に関する評価を主観的に判断した数値の集計である。

昨年度との変更点としては、評点の「5. よくできている」を「できている」と文言を変えた。よくとまではいえないが「できている」という回答が、昨年度に比べてかなり多くなっている。

以下、園長の所見を述べる。

I 園の教育保育理念・基本方針に関して

園の教育保育理念・基本方針の理解については、昨年度に比べ「できている」の回答が増えた。「だいたいできている」の回答も含めると90%以上のため、ほとんどの保育者が園の教育保育方針を理解して保育にあたっていることが理解できる。しかし、③「園の今年度教育保育の努力目標」、④「自分が担当する年齢の年間指導計画」、⑤「園が目指す幼児の姿を自分なりにイメージできる」については、「あまり理解できていない」「できていない」が数名見られた。今後は、園全体で園の理念や教育方針をその時々に応じて確認し、理解につとめていきたい。

Ⅱ 子どもの保育に関して

子どもと関わるうえで大切な11項目が挙げられている。視診、傾聴、言葉遣い、平等、尊重、肯定など、90%から100%に近い保育者が「できている」と答えていることから、自己評価では保育者としての質が高いことが読み取れる。②「子ども一人一人の家庭環境や発育・発達の状態について理解できている」や⑩「子ども同士の関係にも配慮して保育を行っている」は、子どもと関わる時間等が各々異なることから、理解できているという意識に差があることが感じられる。各々の立場に応じて必要な情報を共有し、子どもの不利益にならないように配慮したい。

Ⅲ 保護者への対応に関して

保護者との関係においては、「できている」「だいたいできている」といった回答が多いことが読み取れる。昨年度同様、概ね良好な結果である。子どもを教育・保育するうえで、保護者との関係はとても重要であるため、今後も聴く耳を持ち、丁寧な関わりを心掛けていきたい。

また、クラス担当だけでなく、主任、副園長からの声掛けも大切にし、多くの教職員が保護者一人ひとりと繋がっていることを感じてもらえる関係性をつくっていきたい。

Ⅳ 同僚・上司とのコミュニケーション等に関して

昨年度に比べ、全体的に「できている」といった回答が多くなったが、⑥「自分の考えや思いを上司や同僚に対して伝えている」においては、数名が「あまりできていない」と答えている。園運営をしていくにあたり、保育者間のコミュニケーションは必須であるため、話しかけやすい雰囲気づくりや年長者からの小さな言葉かけを大切にしていきたい。

Ⅴ 能力向上の努力に関して

どの項目においても「できている」の回答が増加した。④、⑤、⑥、⑦といった項目からは、経験年数にかかわらず、子どもの前に立つ保育者としての基本を一人ひとりが理解して取り組んでいることが読み取れる。今後は、目の前の保育を大切にしながら、更に自分自身を向上させる経験や目標をもつ機会を園全体で計画したい。